

事業コード	H18-建-継-32		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災 (tel) 018-860-2515
路線名等	玉川		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	仙北市角館町		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

1. 事業の概要

事業期間	S52 ~ H30 (42年)	総事業費	137.2億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	延長L=9,700m 計画高水流量Q=2,500m ³ /s					
事業の立案に至る背景	本河川は、流路の蛇行が甚だしく、加えて当時の木材需要に伴い流域内の伐採需要の増加に起因した洪水災害が発生していた。特に昭和47年7月豪雨により大災害が発生し、これを契機に本改修事業が立案された。					
事業目的	昭和22年8月豪雨及び昭和47年7月豪雨などと同程度の雨により発生する洪水被害から住民の生命と財産を守る事を目的とする。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	13,713,700	13,713,700	0		
	経費内訳	工事費	10,731,300	10,731,300	0	
		用補費	2,332,100	2,332,100	0	
		その他	650,300	650,300	0	
	財源内訳	国庫補助	6,856,850	6,856,850	0	
		県債	6,171,000	6,171,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源	685,850	685,850	0			
事業内容	築堤、掘削、護岸工	築堤、掘削、護岸工				
事業の進捗状況	全体計画 137.1億円 平成17年度末投資額 83.7億円 進捗率 61.0%					
事業推進上の課題	なし					
関連する計画等	あきた21総合計画の中で河川の氾濫から人命と財産を守り、安全で安心な地域をつくる河川改修の推進に位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	県全体の予算の制約及び用地取得に期間を要しているためである。しかし、過去から洪水による浸水被害が発生しており、地元からの改修要望が高く早期完成が必要である。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	改修延長/要改修延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	44.2 %		データ等の出典	河川課調べ	
	実績値 b	44.4 %				
達成率 b/a	100.5 %		把握の時期	平成18年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	現況流下能力が改修目標流量に対して50%程度であり、早急に改修し氾濫被害を防止する必要性は高い。	23点
緊 急 性	流下能力が低く、浸水被害が発生すると予想される無堤区間があるため、早期に改修する必要がある。	10点
有 効 性	改修により浸水被害が軽減され治水効果が発現される事により、住民の生命と財産を守る事となるが特に圃場の浸水被害を防止する事が出来る。	20点
効 率 性	費用対効果 事業の費用便益費は、3.72であり効率性は高い。 コスト縮減 護岸材料には、現地より発生した玉石を用いコスト縮減を行いつつ環境にも配慮している。	11点
熟 度	地域の状況 浸水被害を防止するため、改修の早期完成を求められている。 環境対策 現河川の流況及び河畔林を保存する計画により環境に配慮している。	15点
判 定	ランク () 地元からの要望は高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	79点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続きコストと縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード(H18-建-継-32)
箇所名 (仙北市角館町)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	想定氾濫区域内の状況 浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49~10戸	7		
	10戸未満	3			
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59~10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	0	
		2~1施設	3		
		無し	0		
	整備計画の策定 関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	
		協議中であるが特段問題ない	3		
		策定に着手していないが予定がある	1		
		予定無し	0		
計			30	23	
緊急性	災害発生危険度 改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	7	
		40~59%	7		
		60%以上	5		
	秋田県水防計画 重要水防地域	評定基準区分A	5	3	
		評定基準区分B	3		
計			15	10	
有効性	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別のその他関連事業である	0		
	河川整備の有効性 安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3		
	地域開発の計画がある	1			
計			20	20	
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	2.0以上	5	5	
		1.0以上~2.0未満	3		
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	1	
		2項目	3		
		1項目	1		
		無し	0		
当初計画との比較 当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計			15	11	
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	5	
		配慮が不十分で検討している	3		
		特に配慮はない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	5	
概ね進捗(90~100%未満)		5			
計画より遅れている(90%未満)		3			
計			20	15	
合計			100	79	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		